



新型コロナウイルス対策委員会 ニュース

新型コロナウイルス ワクチン接種後の健康調査結果 最終まとめ



※こちらの調査は、特別養護老人ホーム(507施設)・養護老人ホーム(29施設)・軽費老人ホーム(39施設)を対象に行いました

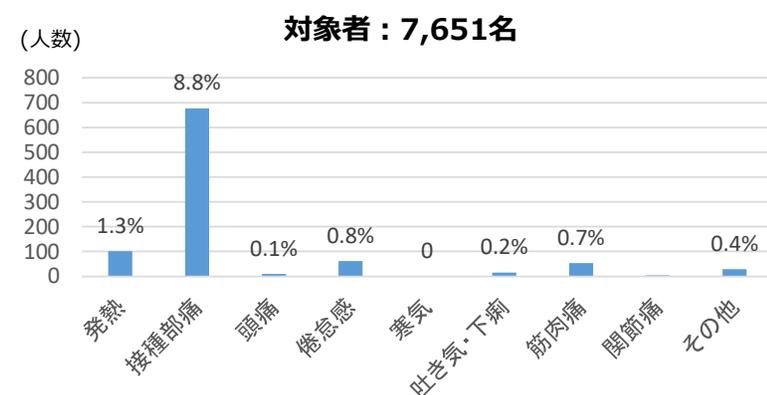
◆調査期間 : 2021年5月14日(金) ~ 2021年8月3日(火)

◆施設種別と接種人数

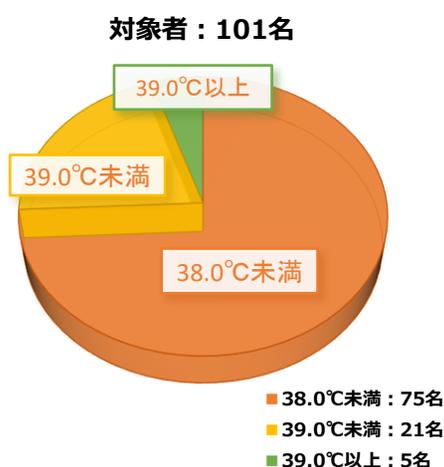
施設区分	利用者1回目接種		利用者2回目接種		職員1回目接種		職員2回目接種	
	施設数	接種者数	施設数	接種者数	施設数	接種者数	施設数	接種者数
特別養護老人ホーム	130施設	6,642名	110施設	6,074名	121施設	4,452名	102施設	3,805名
養護老人ホーム	8施設	710名	7施設	711名	7施設	205名	7施設	203名
軽費老人ホーム	8施設	299名	14施設	478名	7施設	61名	13施設	129名
累計	146施設	7,651名	131施設	7,263名	135施設	4,718名	122施設	4,137名

【利用者1回目接種時の状況】

◆具体的な副反応症状

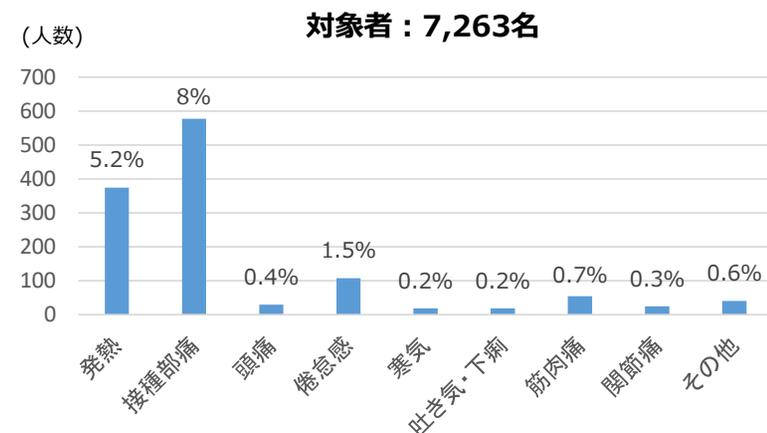


◆発熱者状況

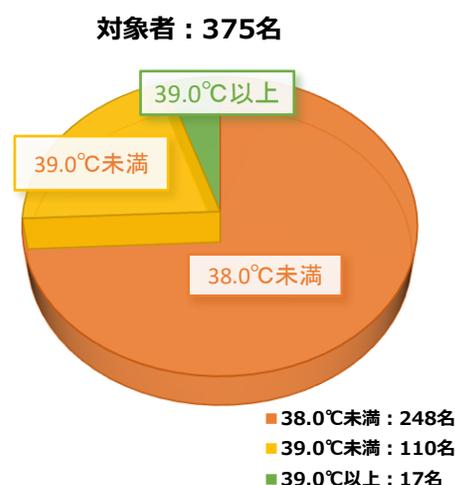


【利用者2回目接種時の状況】

◆具体的な副反応症状

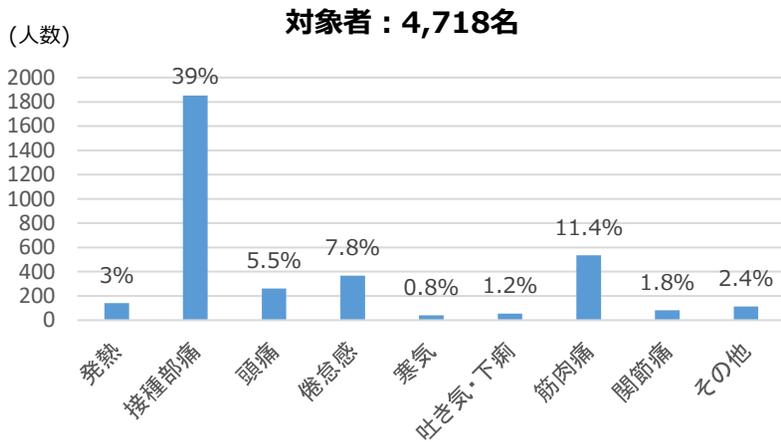


◆発熱者状況

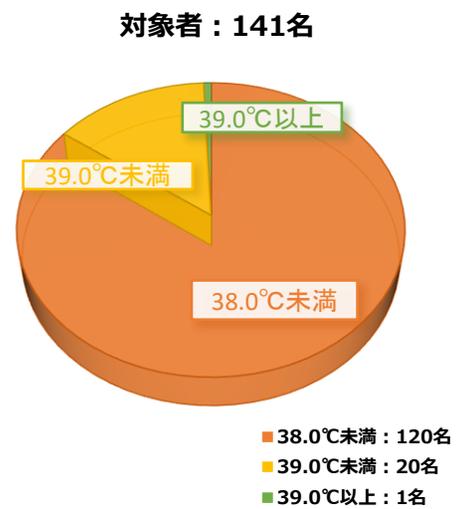


【職員1回目接種時の状況】

◆具体的な副反応症状

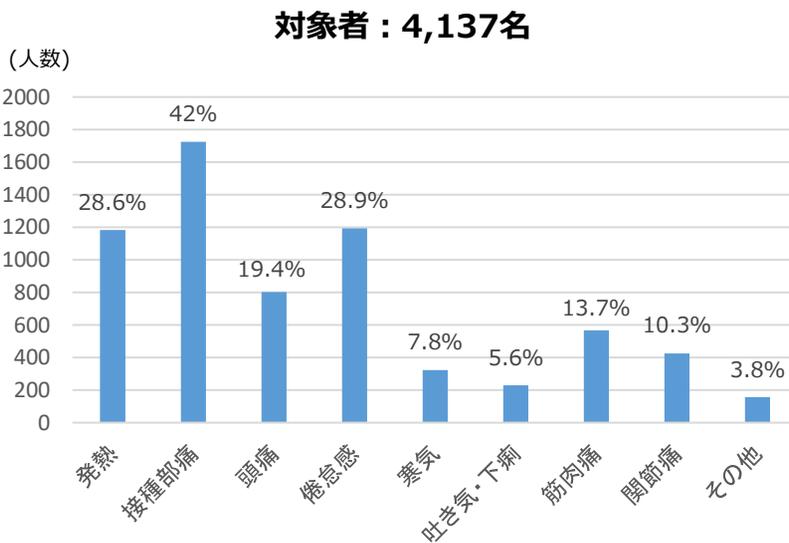


◆発熱者状況

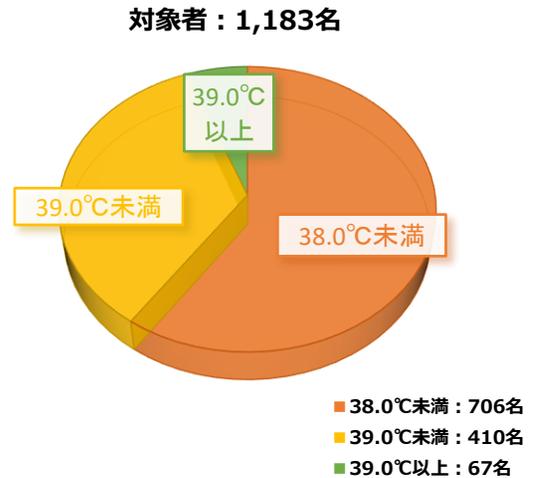


【職員2回目接種時の状況】

◆具体的な副反応症状



◆発熱者状況

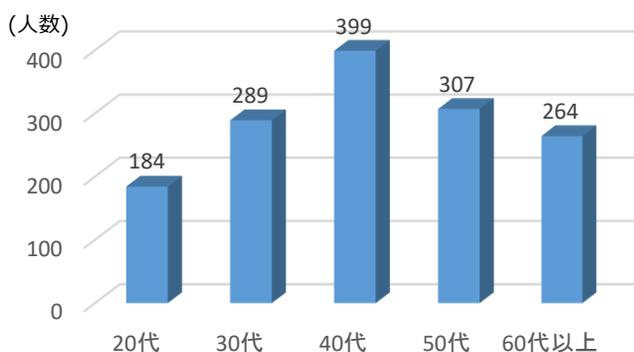


◆ その他副反応症状

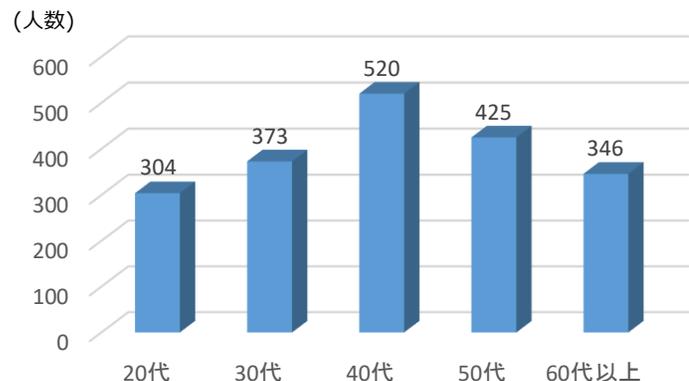
血圧上昇、発汗、冷汗、めまい、眠気、食欲不振、動悸、体のほてり、皮膚・舌のピリピリ感
 接種部位(腕)の発赤、痺れ、脱力感、痒み、腫脹感、接種側の頸部・肩の張り
 咳、鼻水、咽頭痛、嘔吐、蕁麻疹、口内炎
 アレルギー症状の悪化、飛蚊症の症状、味覚・嗅覚障害、視覚異常、頻脈、頻尿
 不正出血（婦人科系）、目の充血、左腋窩リンパ節痛

【職員の副反応が出た年代について】

1回目接種

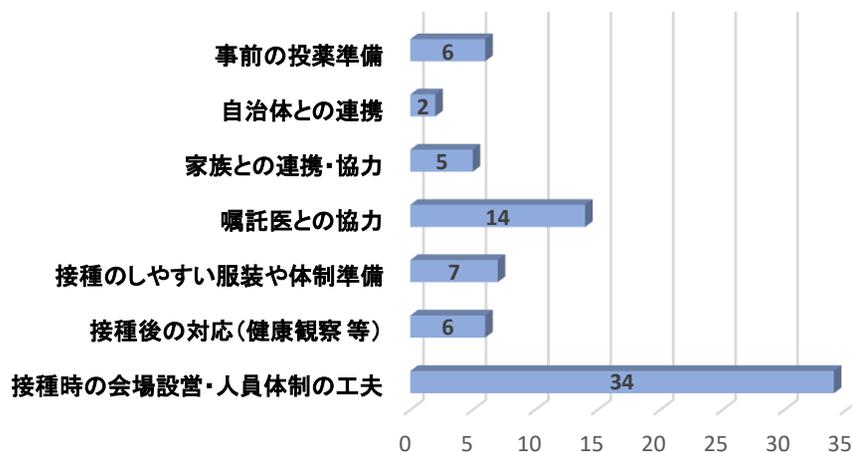


2回目接種

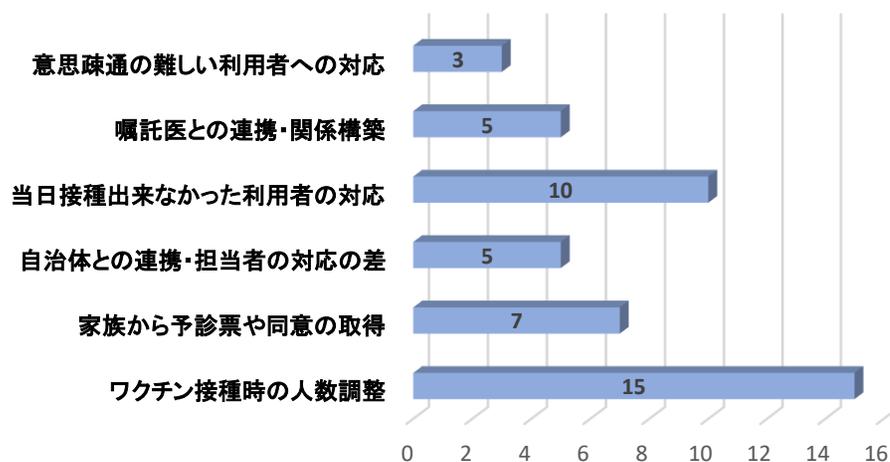


【その他ワクチン接種に関するご意見・困っていること・接種時工夫したこと等あればご記入ください】

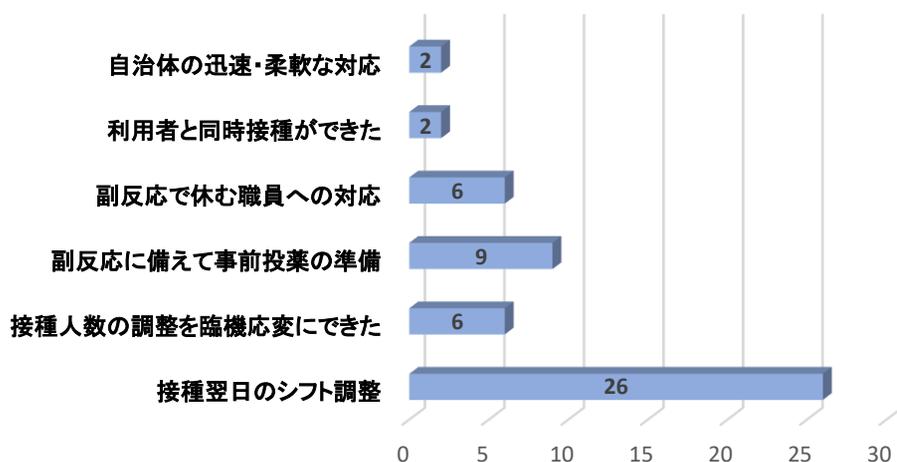
◆ 利用者への接種時に工夫したこと、良かった点 等



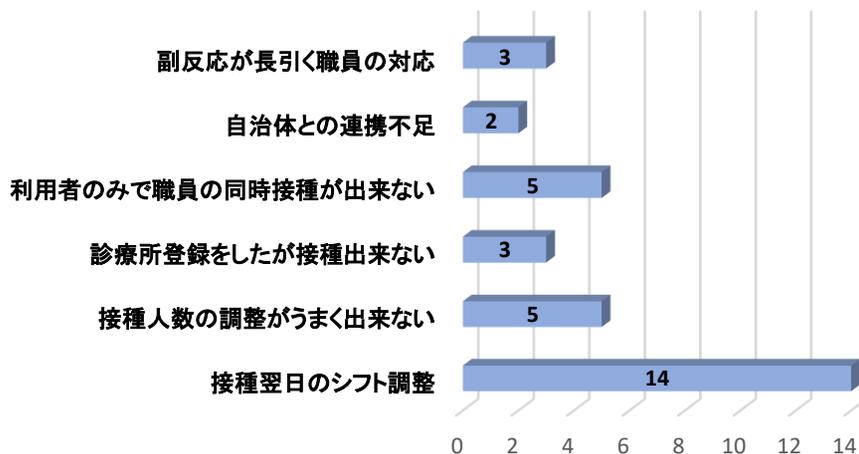
◆ 利用者への接種時に苦勞したこと、大変だったこと 等



◆ 職員への接種時に工夫したこと、良かった点 等



◆ 職員への接種時に苦労したこと、大変だったこと 等



★調査結果は以上です。ご回答をいただいた施設の皆様、調査へのご協力ありがとうございました。
新型コロナウイルスのワクチン接種は今後も続いていくことと思われます。
今回の調査結果をご活用いただき、今後のワクチン接種時にお役立てください。

新型コロナウイルスワクチンに関するちょっぴり情報



● 新型コロナウイルスワクチンの効果とは？

⇒ ワクチンは当初「発症を防ぐもの」として効果を期待されていましたが、「感染を防ぐ」効果も分かってきました。
ワクチン接種者が感染しにくくなるという事は、接種者が周囲に感染を広げる可能性が低くなることと言えます。
日ごろから関わる人々や家族を感染から守ることが出来るとなれば、ワクチン接種の意義は十分にあると言えます。

※引用記事は6月30日時点のものであり、現在様々な変異株が出現していることから、変異株についてのワクチン効果については、開発や臨床試験が現在も続けられている状況です

● 感染をしたとしても重症化しにくい、周囲に広げにくいという効果

⇒ 接種をしたからといって感染をしない！ということではないので、今まで通りの感染対策は必要です。
しかし万が一、感染してしまったとしてもワクチン未接種者と比べてみると、

①排出するウイルス量が少なく、排出する期間が短い ②無症候性感染者の割合が高い ③症状のある期間が短い
ということが分かっており、自身は重症化しにくく、周囲へも感染を広げにくいということになります。

● 近頃よく聞く「ブレイクスルー感染」とは？

⇒ どんな感染症にも100%の効果のあるワクチンはないそうです。ワクチンを接種したあとでも感染する可能性があり、それを「ブレイクスルー感染」と呼びます。2回目接種を受け、2週間経ち十分な抗体が得られた後に感染することです。
ウイルスには1度感染したら「二度罹り」しないウイルスと、そうでないウイルスがあり、コロナウイルスは後者のタイプです。
ウイルスの拡大は、ある一定の確率で生じ、感染者が増えれば増えるほど、変異を繰り返していきます。
新たな厄介なウイルスを食い止めるためにも、最も有効な手段が、ワクチンを含む感染症対策の徹底です。

● ワクチン接種後に起こる副反応とは？

⇒ 副反応とはワクチン接種に伴う反応を指します。薬剤の場合は投与した化学物質により期待される以外の作用を意味する「副作用」と言われますが、ワクチンについては生体の反応を促すものであることから「副反応」という用語が使われます。
副反応には「局所症状」と「全身症状」があり、接種部位の腫れ・発赤等の局所反応から、頭痛・筋肉痛・寒気・発熱等全身反応が想定されており、従来のインフルエンザワクチン等と比べると、反応の発出頻度は高いといわれています。

● ワクチン接種後も今まで通りの感染症対策を！！

⇒ ワクチン接種をしていればブレイクスルー感染をしても重症化しませんが、発病をしないこともあるため、気づかないまま人に移している可能性があります。マスク未着用での会話や3密への場所の出入りは、ワクチン接種が浸透するまでは感染対策を続けていくことが重要です。

(引用記事：厚生労働省 コロナワクチンQ & Aより)